

ファーストペンギンへの一歩

和歌山市立伏虎義務教育学校 9年 東野 瑞 葵

皆さんは「ファーストペンギン」という言葉を知っていますか。自分自身が「ファーストペンギン」になろうとしたか。もしくはなっていたのか。そんなことを考えたことはありますか。私は中学2年生になるまで考えたことはありませんでした。それ以前に、「ファーストペンギン」という言葉を聞いたことがなかったのです。

私が中学2年生になってすぐの出来事です。担任の先生の学級通信の一部に、このような文が載せられていました。

『勇気をもって挑戦する一人目のことを「ファーストペンギン」というそうです。ペンギンの群れの中から魚を求めて最初に飛び込む一羽のペンギンのことです。海には天敵がいるかも知れない。それでも勇気をもって飛び込むペンギン。その「勇敢なペンギン」のように、リスクを恐れず、初めてのことに挑戦する人を敬意をこめて「ファーストペンギン」と呼ぶそうです。』

私はその時初めて「ファーストペンギン」という言葉と意味を知り、同時に「私の周りでファーストペンギンになるのは誰なのだろうか？やっぱりあの子とかあの子とかかな？」とっていました。私は、自分自身が「ファーストペンギン」になるということを考えていなかったのです。知らず知らずのうちに、新しいことへ挑戦するということを恐れ、諦めていたのです。

そこで私は、自分で「ファーストペンギン」について調べることにしました。調べ進めていると、驚くべきことを発見しました。「ファーストペンギン」に対する言葉として、「セカンドペンギン」という言葉があるのです。「セカンドペンギン」とは、ファーストペンギンに続く二羽目のペンギンであり、ファーストペンギンによって安全が確認されたあとに海に飛び込むペンギンを指す言葉

だそうです。それを読んですぐに、私だ、と感じました。または、「セカンドペンギン」でもなく、更にその後に飛び込むペンギンだとも思いました。そう思うと、改めて自分が「ファーストペンギン」になることを考えていなかったこと。挑戦することを諦めていたこと。それらに恥ずかしさと、悔しさを感じました。失敗を恐れず新しいことに挑戦してみよう。そう決めました。

それから私は、今まででは考えられないくらい、新しいことへ挑戦してみました。理科の自由研究に、ビブリオバトル、本のポップをかいてみること。すこしのことで、成功、失敗は必ず何かをもたらしてくれる。そう信じて、行動しました。当たり前ですが、いきなりそんなことが簡単にできるわけありません。実際に、ビブリオバトルでは、昔先輩が発表していた記憶と少しの情報のみで、不安が募るばかり。挑戦というものがこんなにも重いものだと思いで、心で感じました。結果も、望んだ結果を出すことができず、悔しい思いをしました。他にも、思うような結果が出なかったり、失敗もたくさんしました。ですが、失敗した分、成功だってありました。初めての自由研究では、挑戦したいテーマを見つけることができ、楽しみながら結果を出すことができました。それらの失敗と成功。その過程でのやりがい、小さな発見が、今まで以上に大きいものとなり、新しいことに挑戦するのが楽しいものだと思えることができました。目に見える変化が無くとも、挑戦がもたらす「成功」と「失敗」の経験が、少しずつ、自信を与え続けている。「ファーストペンギン」への一歩を進み続けている。私はそう感じています。

私はこれからも挑戦を続けたいです。今も何処かで、「ファーストペンギン」は、うまれています。みなさんも、挑戦を繰り返し、「ファーストペンギン」への一歩を踏み出していきませんか。